



家族を守る力になりたい



前衆議院議員

大島  
あつし

私は、通勤途上の高崎線の中で新聞を読んでいたときに、民主党が候補者を募集しているとの小さな記事がたまたま目に留まり、公募に応じたのが議員になったきっかけです。当時の民主党には、私が敬愛する羽田孜元内閣総理大臣がいらっしゃいました。日本鋼管（現 JFE スティール）での輸出営業、ソニー生命での新規顧客の開拓を担当していたことが、今でも私の活動を支えています。

プロフィール

埼玉県生まれ / きたもと幼稚園 / 中丸小学校 / 北本中学校 / 京華高等学校 / 早稲田大学法学部卒業 / 日本鋼管（現 JFE スチール）にて14年間勤務 / その後、ソニー生命にて営業職を5年間勤める / 2000年に民主党公募候補として衆議院初当選 / 2017年7期目当選 / 元内閣府副大臣 / 元総務副大臣 / 元衆議院懲罰委員長 / 前国民民主党企業団体委員長 / 現立憲民主党組織委員長 / 前厚生労働委員会委員 / 日本アイルランド友好議員連盟 / 科学技術イノベーション議員連盟



地元事業主の皆さまには、アンケート調査を実施して、ご回答頂いた要望や相談事項には、できる限りの対応をしています。（写真 ものづくりの経営者の皆さまが主催されたセミナーに参加。今後の景気動向など意見交換を実施。）



BSフジ プライムニュースに出演し、萩生田、長妻両衆議院議員と憲法改正について議論する。政治改革で官邸機能が強化されたので、立法府の権能を強化するために、首相の解散権を制約する必要があると指摘する。

ワクチンは戦略物資、日本の研究開発力を世界最高水準に

フランスのマクロン大統領は、5月7日、「アングロサクソン（アメリカ・イギリス）が多くのワクチンや原料を封じ込めている」と欧州連合（EU）首脳会議が開かれたポルトガル北部ポルトで記者団に語ったと報道されています。

ワクチン開発、「2021年日本の敗北」

7月までには、リスクの高い高齢者への接種が終了していたので、8月に感染者が急拡大しても医療崩壊には至りませんでした。ご尽力頂きました方々に心より敬意と感謝を表します。

ファイザー社と我が国政府との契約では、9,500万人分を4月から11月までに供給することが決まっているだけで、月毎に平準化され供

給されるかどうかは分かりませんでした。また、ファイザー社のワクチンは欧州域内で製造していますので、輸出するにあたっては、欧州委員会の輸出許可が航空機一便毎に必要です。輸出許可を必要とする期間は、当初は3月まででしたが、その後延長され12月まで輸出許可が求められています。

4月にファイザー社のワクチン工場がドイツで新設され、5月から日本への供給が本格化しました。6月までに5,000万人分が供給され、65歳以上の高齢者への優先接種が終了したことで、その後、感染が拡大しても、ぎりぎり踏みとどまることができたのです。

しかし、感染拡大が早まったり、ワクチン供給が滞ったりして、死亡者数が跳ね上がっていたとしたら、

日本国民の生死を海外企業のワクチン供給と欧州委員会の輸出許可に委ねていることも顕在化していたと思います。多額（少なくとも7300億円）の費用を払ってワクチンを購入し、自国民の生死を他国に委ねざるを得なかったこの事態は、「2021年日本の敗北」です。

同じタイミングでの接種が国の責務

15年前、当時国立感染症研究所の研究員であった岡田晴恵先生と知り合い、新型感染症について国会で取り上げています。2006年、私は、厚生労働委員会で「例えばある国でヒト・ヒト感染のフェーズ4になった。ワクチン開発のためにその新型コロナウイルス株が同タイミングで、日本、アメリカ、イギリスに送られた。3ヶ月、半年後に、アメリカでもイギリスでもワクチンの投与が始まった。日本ではできていない。私が政府でしたら一刻も早く負けないように開発したいと思います。国民の不満を起ささないためには、同じタイミングで日本国民もワクチンの投与が始

まらなければならないと思います。」と、政府に対応を求めています。当時からワクチン開発は国の安全保障であり、他国に先駆けて開発することが、我が国の立場を優位にすると考えていました。

新型コロナウイルスワクチンを自国で開発した国は、米国、英国、中国、ロシアです。自国の安全保障のために、他国に依存することを明らかに回避したのでした。その上、外交上の手段として使っています。

治療薬開発が今後の課題

インフルエンザでも予防接種のワクチンとともに、効果的な治療薬が開発されたことで、罹患したとしても以前ほどにはつらい思いをしなくて済むようになりました。

製薬会社としては、新薬として開発に成功すれば多くの利益を見込めるので、新薬開発に経営資源を投入して進めることは当然です。一方、既存薬であっても、新型コロナウイルス感染症に治療効果が見込めるものもあります。既存薬ですので、副反応についても検証済みで安全性は



担保されています。

北本市にある北里大学メディカルセンターの設立に尽力され、ノーベル賞を受賞した大村智博士が開発したイベルメクチンも有望な治療薬の候補です。北里研究所を訪問して、新型コロナウイルス感染症治療薬として、イベルメクチンの可能性と薬事承認への取り組みを伺いました。製薬大手興和が企業治験を開始すると発表し、本格的に薬事承認に向けての治験が開始されました。医師でもある同僚議員とともに、国会でイベルメクチンを取り上げることで、政府の取り組みを促しています。



アストラゼネカ社が供給するワクチンは、北本市の北里大学メディカルセンターに隣接する第一三共のワクチン工場で充填(瓶詰め)され、全国に出荷されています(写真 建設中の同工場を視察しました。)

## 科学技術の創造力を超えては発展しない

今回、日本で、ワクチンの独自開発ができなかったことは、我が国のあり方そのものを問う課題でもあります。

「政治は経済力によって政策の自由度が決まり、経済はその国が持っている科学技術の創造力を超えては発展しない」と考えています。時間があると国の研究所を訪問して、一線の研究者から研究テーマを聞き続けています。

「以前は工学部で優秀な学生が民間企業に就職することは珍しくなかったが、今は理学部でも研究者として囑望されても民間に行ってしまう」と、研究所所長から数年前に伺いました。日本の「科学技術の創造力」が弱くなっています。

半導体の需給が逼迫しているので、我が国の半導体製造装置について調べてみると驚きでした。てっきり、ニコンやキャノンの製造装置が世界で一番微細な基盤をシリコンウエハーに焼き付けられると考えていましたが、オランダのASML社に抜か

れていました。この技術は半導体製造技術の中核です。

先日、国立天文台を訪れ、常田台長から「科学技術強化法案」(法案提出者として参議院で答弁)が成立して任期付き研究者の雇用期間が伸びたことで、研究成果が認められて常勤の研究職に転換できる方が出てきて、研究者の励みになっていると伺いました。また、量子暗号研究の一人者である情報通信研究機構の佐々木先生は、研究者は安定した生活と自由な研究環境で力を発揮できるとおっしゃっています。

経済力の基盤である日本の科学技術を最先端にするには、今後多くの方々の理解と応援が必要です。2000年代に雇用法制を緩和して非正規雇用を常態化したことが、企業が人材を育てることを弱め、研究開発分野での人材の流出を招いたのではないのでしょうか。渋沢栄一は日本資本主義の父と言われています。2021年代を通して、人を育てる経営を確立し、安心して研究できる環境を整え、人の力を引き出す日本経済にしていきたいと決意しています。

## インターンシップを経験して

今年の夏、農家の方から、手紙が届きました。「毎日、暑い日が続いておりますが、お元気でお過ごしですか。ハウスの果実もおかげ様で、収穫出来るようになりました。何かとお忙しいと思いますが、くれぐれもお体に気をつけて下さい。」と書いてあります。

以前、積雪災害で地元の農業用ハウスの多くが倒壊し、お手紙をいただいた農家へも積雪災害の直後に駆けつけて、事情を伺いました。そしてその窮状を官房長官に質疑で伝え、救済に結びつけることができたのです。

救済につながった質疑を傍聴したインターンシップの大学生の感想です。

2か月間インターン生として活動してきて、学んだことはたくさんあった。仕事をする上での心構え、事務所スタッフ全員で仕事しやすい環境をつくること、そして改めて働くことの大切さを多くの大人たちを見て学んだ。インターン生として、正直活動を始めたばかり



の頃は風邪で休んだり、自ら積極的にコミュニケーションを取らなかつたり学生気分が抜けてなかった。バイトとの両立も上手くできず、インターンシップを辞めたいと考えたこともあった。

そんな私が、今回辞めずにここまで続けられたのは、大きなきっかけがあった。それは2月22日の内閣委員会で大島代議士が質問するため、傍聴したとき、質問の内容が私の地元である埼玉県北部の雪害で被災した農家に対して手厚い保障を訴える内容であったのだ。私の実家(ハウス農家)も被害を受けていたので、その質問を傍聴した際、今まで曖昧だった政治家の仕事のイ

メージがガラッと変わった。すぐさま被災地を視察し、どのような保障や対応が求められているのかを理解して、政府に訴える姿を見て本当にありがたいと思った。

また、政治家として働く瞬間を生で感じることでとても嬉しかった。辞めたいと思っていたが、大島敦事務所活動していこうと決意した。議員を支える事務所スタッフを間近で見て私もできることは貪欲にやっとうと前向きに活動できた。他にも、秘書さんから仕事の心得を教わって、当たり前なことだが、人の気持ちを考えて行動する大切さ、思いやりの重要さに気づけた。実際に仕事を体験し、自分に足りない部分や得意な部分もやってみて初めてわかった。(Aさん D大学1年生)

